



～外国人女性の出産と子どもの受診に関する研究～

外国人が安心して受診できる医療環境を目指す

平成 29 年度地域協働研究（ステージ I）採択課題



課題名：「外国人の医療環境整備へ向けた取組に関する研究」

研究代表者：石橋敬太郎（盛岡短期大学部）

研究チーム員：吉原秋（盛岡短期大学部）、熊本早苗（盛岡短期大学部）、細越久美子（社会福祉学部）、アンガホッフア司寿子（看護学部）、蛎崎奈津子（岩手医科大学看護学部）、八重樫信治（北上市まちづくり部）、金田仁（北上市まちづくり部）

技術キーワード：多文化共生、外国人向け医療環境整備、出産、子どもの受診、医療通訳

研究の概要（背景・目的等）

現在、北上市には約 550 人の外国人が生活しており、言葉や習慣の異なる人たちとともに生活するという新たな社会が出現している（グラフ）。外国人が安心して生活を送る上で、医療環境の整備を行う必要がある。これを実現するには、医療機関、保健所や国際交流協会などが連携して対応することが求められている。本研究では、北上市に居住する外国人女性が抱える妊娠・出産時の課題や子どもが受診する際の問題を明らかにすることから始めた。

研究の内容（方法・経過等）

1. 医療・保健および外国人支援を担う専門家間の連携を主軸とした意見交換を通して、北上市の外国人の受診状況等の課題の抽出と解決策を見出すために、北上済生会病院の協力を得て、「産科・小児科および母子保健における外国人のための環境整備構想会」を実施した（写真）。
2. 北上市の医療環境整備に向けた手がかりを見出すために、同市内の病院で出産し、子どもの受診を経験した外国人女性 4 名にインタビューを実施した。

これまで得られた研究の成果

ア。「産科・小児科および母子保健における外国人のための環境整備構想会」から

北上済生会病院、北上市健康増進課、北上市国際交流協会とも、外国人がより安全に安心して医療・保健を教授できるようにと高い意識をもち、また豊かな異文化理解を基盤として診療や看護、支援活動を展開していることがわかった。具体的には、医療通訳を活用するほか、各専門家が本人や家族に絵を見せながら、また身振り手振りで説明していた。

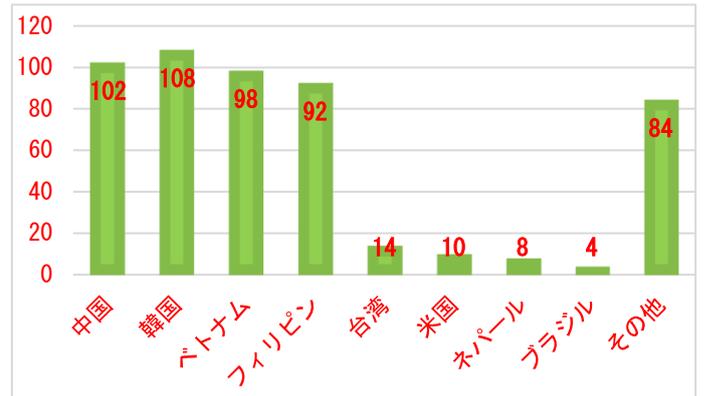
イ。外国人女性に対するインタビューから

北上市内の医療機関等の対応に基本的に満足していた。ただし、出産の際の医師の説明、モニターの説明や出産後の食事に対する理解など文化の相違に理解を望んでいる。また、外国人女性たちは、書類を読みあげてもらふことによって、疑問に思ったことなどを質問できる雰囲気を感じていることがわかった。

ウ。全体として

今後、医療機関、保健所、国際交流協会が連携して、外国人女性の出産と子どもの受診に対応することを確認したほか、市が主体となり、医療通訳者の派遣・配置・養成について実現可能な仕組みを検討することを確認した。

グラフ. 北上市 国籍・地域別在留外国人人数（2017年6月末）



入国管理局 在留外国人統計より

写真、「構想会」の様子



今後の具体的な展開

1. 外国人女性の出産および子どもの受診において、市、医療機関、保健所、国際交流協会の連携を実現できる仕組みを検討する。
2. 外国人向け医療環境整備については、市が主体となり、国際交流協会の協力を得ながら、医療通訳者の派遣・配置・養成の仕組みを構築する。
3. 「マタニティブック」の英語訳を通して、外国人女性が安心して出産できる情報を提供する。

（謝辞）調査実施に当たり、調査研究にご協力してくださった北上済生会病院、北上市健康増進課および北上市国際交流協会の皆様、そして快くインタビューに回答してくださった北上市在住の外国人の皆様から感謝申し上げます。